

清水猛教授退任記念号発刊にあたって

清水猛教授は2004年3月31日をもって定年でご退職になられます。退任記念号発刊にあたり同教授の略歴のご紹介と40余年の長きにわたる研究・教育・社会への貢献に対して学部教員を代表して感謝を申し上げたいと思います。

わが商学部は、慶應義塾創立100周年を記念して1957年（昭和32年）に6番目の学部として誕生しました。清水教授は、その第2期生として学部・大学院に入学され、大学院修士課程修了と同時に1964年（S39年）助手として就任されました。その後1967年博士課程修了と1989年商学博士号取得をされながら商学部卒業生の最初の教員として、1970年（S45年）助教授・1980年（S55年）教授として今日までご活躍されてきました。

わが学部は、理論と実証の精神を車の両輪のように商学の分野で実現する、いわゆる実学の精神の実践を学部のモットーにしてきました。清水教授は、わが学部教育の成果を商業学の分野で身をもって実践されてきました。商業学関連学会の設立や、多数の先駆的かつ独創的な研究業績の発表など、ミクロ・マーケティング論とマクロ・マーケティング論との体系化に努力されて学会への貢献も多大なものであると言えます。多変量解析を駆使したゼミナールにおける厳しく熱心な教育指導も31期生にのぼり、就職部長や体育会合気道部長をそれぞれ歴任されるなど商学部を超え塾全体においても、広い意味での福澤塾教育の実践にも尽力されてきました。

日吉の丘で夫婦仲良くテニスをされ、以上述べたように塾内外で活躍されている清水教授の存在は、我々の偉大な目標であり、我々の誇りであります。その若々しい姿を知っている我々にとって定年と聞いて大変驚いているのが実情であります。

慶應義塾に定年規定がある限りいたしかたがないことですが、今後も健康に留意され、なお一層のご活躍をお祈りいたしております。4月から名誉教授として研究・教育の場で、我々を含めた後進の指導をお願いし、本号を清水猛教授退任記念号として捧げたいと思います。これにより些かなりとも教授の学恩に報いられば幸甚であります。

平成16年3月1日

商学部長 桜 本 光